

## I. Shabaan小学校の給水改善(ウガンダ)

- 実施団体: Centre for Women and Youth Empowerment(CEWAYE)
- 実施地: ウガンダ Isingiro県 Nakivale refugee settlement
- プロジェクト予算: 2,033ドル(JWFファンド1,300ドル、寄付金233ドル、団体400ドル、受益者100ドル)
- 受益者数: 1,000人(男子300人、女子500人、地域住民200人)
- 実施地の水問題:

Nakivale難民居住地のNew Congo共同体では、難民キャンプ・ホストコミュニティの住民と学校の生徒が同じため池を水源としている。Shabaan小学校(Shabaan Social Progressive Initiative Primary School(SSPI))はこの地域唯一の学校だが、ため池から4Km離れた所にある。生徒たちは毎日、2・3時間かけて水汲みに行く。これによって、特に女子の学業時間や道中安全の確保が求められている。校内に安全な飲料水へのアクセスはなく、衛生環境は劣悪で、生徒や地域住民には水系感染症が頻発している。



SSPI小学校外観



ため池まで4Km歩く生徒たち



ため池から水を汲む生徒たち

- 主な活動内容: 雨水貯水システムの設置、足踏み式手洗い器2台の設置、住民チームへの雨水貯水槽システムの維持管理と補修訓練等。
- 特長: 参加型モニタリングと評価手法を導入して学校側と住民のオーナーシップを促し、目的達成と持続性に従事させる。
- 団体: 2017年設立、主婦の話し合いから貧困脱出をめざす団体として発展した。西ウガンダ地域に密着して、村落雨水貯留、太陽光発電による学校給水、植林事業等の実績あり。